



みつけた!



徳川「葵の紋」発祥ゆかりの地 花ヶ池



徳川家康の祖父である松平清康は、享禄2（1529）年、三河平定を推し進めるため東三河へ進攻しました。この時、伊奈城主・本多正忠は、いち早く清康の陣に参じ、先陣として吉田城を攻め落としました。そして、この勝利に喜んだ正忠は、清康を伊奈城へ招き、祝宴を開きました。この祝宴で、酒肴を城内にある花ヶ池の水葵（ジュンサイ）に敷いて出したそうです。これを見た清康は、大変喜び、本多家の家紋「立葵の紋」を譲り受け、以降使われるようになりました。この立葵の紋が、諸説さまざまある徳川家の「三つ葉葵の紋」の発祥の一つとも言われています。

現在、公園として整備された花ヶ池は、伊奈史跡保存会の皆さんによって、水生植物の手入れが行われています。また、近くにはやぐらや堀跡、逆茂木が復元された伊奈城趾公園があり、徒歩で散策することができます。市では、これらを史跡公園として保存し、その歴史を現在に伝えています。

徳川「葵の紋」発祥ゆかりの地が、伊奈町にあることを知らない方も多いのではないのでしょうか。

